

カワアイサ

Mergus merganser

カモ科・留鳥



カワアイサ (オス)

名前の由来

大きな川などにやってくるアイサだから。アイサの古名は「あきさ」で秋の早く（あきさ）に渡ってくることに由来するという。漢字名：川秋沙

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類
ワシ
シタカ

特定種

該当なし

形態的特徴

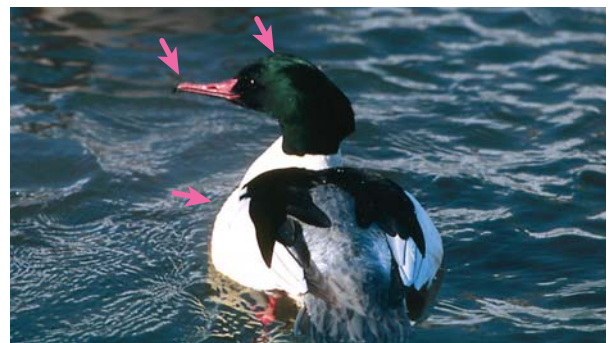
全長（くちばしの先から尾の先まで）オス71cm、メス60cm。くちばしは細長くて先に鉤（かぎ）があり、色は赤い。オスの頭部は緑黒色で長い冠羽（頭部の飾り羽）はない。背は黒く、胸は白く、体の下面は白くて淡紅色を帯びている。初列風切（翼後縁の先端付近の羽）は黒く、雨覆いと次列風切（翼後縁の中程の羽）は白い。くちばしと足は赤い。メスの頭部は栗色で冠羽があり、首が白く、胸、脇、背は灰色、頭部の栗色と首の白との境界は明瞭。

声：鳴くことはきわめて珍しい。オスは「アーフォー、アーフォー」と鳴き、メスは「グワッグワッグワッ」と低い声で鳴くという。またオスが飛びながら「グワッ、グワッ」と鳴いたという観察例があるという。

類似種と区別点：ウミアイサ。

カワアイサもウミアイサも赤いくちばしを持つが、ウミアイサの冠羽（頭部の飾り羽）はよく目立つ。またウミアイサのオスの胸は茶色く黒い縦斑があり、メスの首は灰色で頭の栗色との境界がはっきりとしていない。

カワアイサはアイサ類（ミコアイサ、ウミアイサ）の中では最も大きい。



カワアイサのオス。緑の頭、赤く長く鉤型のくちばし、白い胸



カワアイサ。繁殖終了後からつがいづくりまでの間にはオスもほとんどメスのようになる。左は冠羽が見えるのでメスだと思うが、右は冠羽が目立たないのでオスのようでもある。

生息環境・分布

低地の河川、湖沼に生息する。十勝では留鳥。

分布：ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の中緯度地方に広く繁殖分布し、冬は両大陸南部に渡って過ごす。

日本ではほぼ全土に冬鳥だが北海道では繁殖。北海道では留鳥で繁殖する。山間部や平野部の湖沼や河川

に生息し、その周辺の森林で繁殖する。

十勝では、留鳥として河川の上～下流まで広く分布、繁殖する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期					繁殖							

食性・他生物との関わり

魚類を主に食べる。

頭を水中に入れて泳ぎ回っていることがよくあるが、魚を探しているのだといわれている。巧みに水中に潜り、魚を追いかけて捕まえる。捕らえた魚はくわえたまま浮き上が

り、水面で飲み込む。

繁殖には樹洞を利用する。

捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は4月～6月。

つがいは前年の11月頃、1～2羽のメスをめぐる数羽のオスのグループディスプレイ（→興味深い話の項参照）によって形成される。一夫一妻。

樹洞（あるいは草むら）に営巣する。メスだけが巣作りを行い、産座には自分の綿羽を敷くという。

7～13個の卵を産む。抱卵日数は30～35日。つがいは抱卵期に解消され、メスのみが卵を抱く。

ヒナは他のカモ類と同様、間をおかずにふ化し、親とともに一斉に巣を離れる。

ふ化後60～70日くらいでヒナは独立するという。



カワアイサの親子。ヒナの面倒はメスだけがみる

興味深い話

■1998年に音更町の市街地の神社境内で繁殖した例がある。

■魚を捕らえるため潜水する際、水中には20～110秒ぐらい潜り続けられ、深さ2～3m、ときには4mぐらいまで潜る。

■くちばしは一般的なカモ類とは異なり、細長くて先に鉤があり、上下のくちばしには表皮が変形した歯状の突起が並んでいて、魚を捕らえやすくなっている。

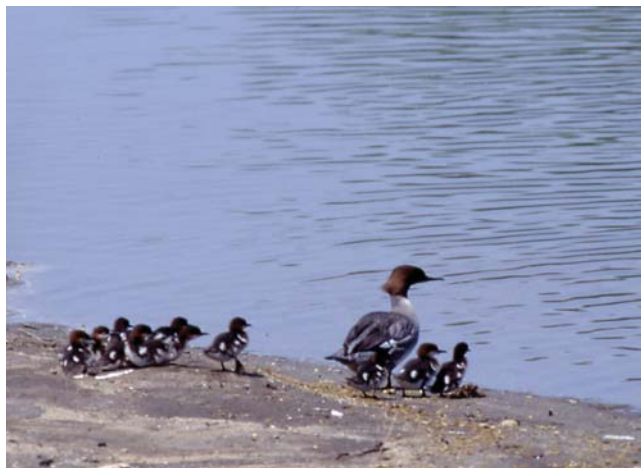
■11月頃つがいを作る際、オスは数羽で1～2羽のメスをめぐるグループディスプレイ（ディスプレイ：メスや他の個体に対して誇示をおこなう特徴的な行動）を行う。オスは首を上へ伸ばしてくちばしを上に向けたり、冠羽（頭の飾り羽）を逆立てて首を前後に投げ出すようにするという。

■1本の樹木の樹洞に3～4羽、あるいは10羽ものメスが巣を作ることがあるという。

■冬は単独やつがいで、あるいは小さな群れで見られるが、

時には数千羽の大群になることもあるという。

■十勝地方のアイヌ語では、カモ類一般（特にマガモ）を「ウォルンチカブ＝水の中にいる鳥」という。



カワアイサの親子。ヒナははぐれたり天敵に襲われたりして徐々に減っていく

配慮事項

魚の生息する開水面が必要。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994

増補版7刷)

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

Cramp, S. K. E. L. Simmons (1977) Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa. Vol. II. Oxford Univ. (eds.) Press, Oxford.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ